

日本画

Japanese Painting

日本画は、中国・朝鮮から伝わった絵画や文化の影響を受けながら、日本で発展したものです。特に京都の日本画は写生(スケッチ)を重視した作品制作をしており、描きたいものと真摯に向き合いながら観察し表現することが特徴です。材料として用いる岩絵具は貴重な岩石からできたものが始まりで、顔料本来の美しさや発色があります。表現方法は膠で溶いた絵具を水で伸ばし塗り重ねていきますが、現在では表現方法や内容も幅広く多様化しています。作品の仕上がりが落ち着いた質感であることなどが魅力です。

日本画専攻では写生により対象物と向き合うことで「物を見る力」を養い、鶏・草花・風景などの課題制作を通して観察力や創造力を育みます。また、古典模写から人物デッサンまで幅広い基礎課題にも取り組みます。制作を通して生徒一人一人がテーマを見つけ、主体的に取り組む力と感性豊かな表現力を身につけることを目指します。



彫刻

Sculpture

彫刻は太古より土や木、石など身近な素材を使って人間や動物のかたちを作り出してきました。時代の流れとともに素材や表現方法も変化していきますが、いつの時代も社会生活の営みの中で人々の精神的な支えとして作り続けられてきました。

現代においては野外彫刻やパブリックアートなど人間・社会・環境とのかかわりを思考した新たな表現も生まれ、鑑賞する者に様々な思いを語りかけています。

彫刻専攻では粘土を肉付けして形づくる塑造と木や石を削って形を彫りだす彫造の両表現で、人体や抽象形の作品を作り出す基本的な実習を行っています。作品制作を通じて彫刻についての魅力を知り、また、立体的な造形力を身につけ、多様な表現について学びます。



洋画

Oil Painting

油彩は絵画技法としてヨーロッパで発展してきました。油彩独自の美しい色彩や堅牢な画肌からなる表現は時代を越えて制作者や鑑賞者を惹きつけてきました。

現在では油彩表現の幅も限りなく広がり、自分が表したい絵画空間に応じて柔軟に画材や技法を工夫することも楽しみのひとつです。

洋画専攻では油彩やデッサン・木炭デッサンなどの絵画表現の基礎を一から学びます。静物や風景、人物などをモチーフに、油彩画やパステル画、エッチング(版画)など様々な技法を取り入れた制作を行い、基本をしっかり学んだ上で豊かな表現力を養います。油彩を学ぶことで現代を広い視野で見ることを目指します。



漆芸

Lacquer Arts

英語の「Japan」という言葉は「日本」という意味ですが、もう一つ「漆芸」という意味もあります。漆芸は、7千年前の縄文時代から続く日本を象徴する工芸分野で、漆は漆の木から採取した天然の塗料です。その艶は他の塗料にはない深い奥行きと透明感を持ち、世界中の人を魅了しています。近年では椀などの工芸品だけでなく、漆を使った絵画や彫刻などの美術作品が登場し、漆の新たな可能性が生まれています。

漆芸専攻では、このような近年の流れを受け、色漆や金・銀粉、貝等の素材を使った伝統工芸としての技術や知識を学んだ上で、漆を絵の具のように使った絵画作品や彫刻作品を制作しています。このような実習を通じ、漆芸の新しい可能性を切り開きながら、高校生の豊かで伸びやかな感性を伸ばすことを目指します。



陶芸

Ceramics Arts

陶芸の魅力は、粘土という自然素材によって形作られたものが、「窯で焼く」ことにより、想像を上回る魅力的な作品に生まれ変わることです。粘土は様々な形に加工することができ、高温で焼くことで、あらゆる形、質感、色を表現することも可能です。作品の表面にかける「釉薬」は、化学反応によって時に宝石のような美しい輝きを生み出します。現在、芸術のジャンルとして、純粋に創ることや観ることを楽しむ作品として発展しています。

陶芸専攻では、ロクロ・手びねり、絵付けなどの装飾実習、釉薬・焼成実習などを行い、生活を豊かに彩る食器から大型の造形作品まで幅広く学習します。陶芸制作を通して粘り強く制作に取り組む姿勢、デザイン力、そしてしなやかな感性を育みます。



染織

Textiles

染織はあらゆる時代・地域の人々の生活の中に存在し、歴史・文化の中で様々な品が生まれています。先人の知恵や工夫がつまった伝統技法や高い技術、染料の発色の鮮やかさを活かした豊かな色彩表現、繊維素材の触感や風合いの面白さなど、多様な角度からその良さを感じ取ることができます。このため、芸術作品として様々な形態に展開することが可能です。

染織専攻では、布に染料で絵柄や図案を染付ける「染め」と経糸(たていと)と緯糸(よこいと)を交差させて布そのものを作る「織り」の二つの分野に取り組みます。「染め」分野では、型染、ろうけつ染などの技法を用いて和服、パネル作品等を制作し、染料を用いた絵画表現の構想力を養います。「織り」分野では、京都の伝統的な手織り機を用い、綴れ織のタペストリー、帯の制作を通じて製織技術を身につけるとともに、糸の色合いの美しさや手触りを豊かに感じ、表現する力を養います。



デザイン

Design

デザインには人々の生活を豊かにし、社会を変える力があります。その表現は多様であり、あらゆるところに活かされています。デザインの力や考えにより生活は美しく彩られ、豊かで創造的な社会のため、すべての人に役に立っていると言えます。

デザイン専攻では、イラストレーション、アニメーション、実写映像、ヴィジュアル・プロダクトデザイン、立体造型など、手描き・手作りの創作からコンピュータを駆使したデジタルメディアによる表現まで幅広く取り組みます。また、地域や社会と連携し、依頼主が抱える課題解決を試みる授業など、実践的な学習活動を行います。人々や社会に貢献する「意義あるデザイン」と「デザイン思考」を養い、社会をより良く変革する力を身につけます。



ファッション アート Fashion Art

私達にとって身近なものである衣服は、寒暖や危険から身を守るなど機能的に用いられるだけではなく、立場や役割を示すために身につけることや、その人の個性や感性、メッセージなどを豊かに表現する方法としても存在しています。

ファッションアート専攻では、ファッションをアートの一分野としてとらえ、衣服制作のための縫製や製図技法を学ぶとともに、基礎的な造形感覚やデザイン知識を習得します。また、繊維以外の素材研究や作品の展示による空間表現を体験し、様々な領域に創作イメージを展開し作品を作る力を育てることを目指します。

